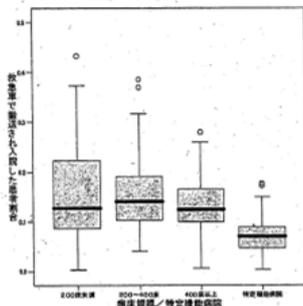


中医協「2009年度第3回 診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会」 2009/5/14
がん診療連携拠点病院の評価は新係数候補から除外

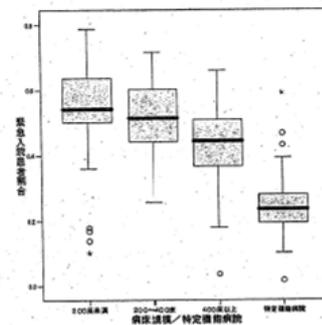
診療報酬調査専門組織・DPC 評価分科会（会長：西岡清・横浜市立みなと赤十字病院長）は5月14日、2010年度から段階的に導入する新機能評価係数として提案されている項目（次頁の表参照）の絞り込みに着手した。

現在提案されている各項目について、評価指標を DPC 対象病院に当てはめてシミュレーションし、係数化の妥当性を検討する。事務局は、DPC 対象病院（2007年度と2008年度の対象病院を除く）の2006年度と2007年度のデータを用いて、診断群分類のカバー率や救急車で搬送され入院した患者数、緊急入院患者数などについて、シミュレーションのイメージを提示した。

病床規模及び特定機能病院と
救急車で搬送され入院した患者割合
(A-1-⑦)



病床規模及び特定機能病院と
緊急入院患者割合 (A-1-⑦)



救急車で搬送されて入院した患者の割合は200～400床病院が最も高いが、特定機能病院以外は大きな差はない。緊急入院した患者の割合は200床未満病院が最も高く、病床規模が大きくなるにつれ低くなり、特定機能病院は目立って低い。今後、他の項目についてもシミュレーションしていく。

この日は DPC データで集計が可能なもののうち、時間的に間に合ったものを提示。がん診療連携拠点病院の評価は示されなかったが、拠点病院に指定されるためのハードルが高いことなどを理由に、係数化しないことを決めた。

係数化候補から絞り込む項目として、池上直己委員（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授）が地域医療への貢献を評価する 2- の指標は「課題が多く評価の指標には使えない」と係数化から外すよう提案した。それに対して「包括払い方式が医療経済及び医療提供体制に及ぼす影響に関する研究」班の主任研究者である松田晋哉委員（産業医科大学医学部公衆衛生学教授）は、「研究班で分析しているデータがある」とし、次回以降それらをもとに再度検討することになった。

1- の救急医療の評価については、相川直樹委員（財団法人国際医学情報センター理事長）が、夜間・深夜・休日に救急患者の受け入が可能な病院は当直医を手厚く配置していることを指摘し、日中とは別に評価する必要があるとした。さらに、緊急入院に加えて受け入れ後24時間以内に緊急手術が実施できる体制を係数に反映する必要があると提案した。

それに対して松田委員は、受け入れ当日と翌日に手術や何らかの処置があった例という形でデータを集計できると応じ、手術数と内容をどのように指標化するか救急医の立場から提案してほしいと述べた。

3-(2)- の副傷病による評価は、すべての副傷病を評価対象にするのではなく、在院日数などに影響するものに限定する必要があるとの指摘が上がった。

【A.DPC においてのみ評価を検討する項目】

1. DPC データを用いて分析が可能であるもの		
	項目	評価指標の例
	DPC 病院として正確なデータを提出していることの評価 (正確なデータ提出のためのコスト、部位不明・詳細不明コードの発生頻度、様式1の非必須項目の入力割合等)	部位不明・詳細不明コード / 全 DPC 対象患者 様式 1 の非必須項目の入力患者数 / 非必須項目の対象となる患者数 DPC 調査において、データ提出の遅滞があった回数等
	効率化に対する評価 (効率性指数、アウトカム評価と合わせた評価等)	全 DPC 対象病院の平均在院日数 / 当該医療機関の患者構成が、全 DPC 対象病院と同じと仮定した場合の平均在院日数 (再入院調査の結果と合わせて評価)
	複雑性指数による評価	当該医療機関の各診断群分類毎の在院日数が、全 DPC 対象病院と同じと仮定した場合の平均在院日数 / 全病院の平均在院日数
	診断群分類のカバー率による評価	当該医療機関で(一定数以上の)出現した診断群分類の数 / 全診断群分類の数
	高度医療指数(診断群分類点数が一定程度高いものの算定割合)	入院期間(または)の診断群分類点数が、一定程度より高いものを算定した患者の数 / 全 DPC 対象患者
	救急・小児救急医療の実施状況および救急における精神科医療への対応状況による評価	救急車で搬送され入院した患者数 / 全 DPC 対象患者 緊急入院の患者数 / 全 DPC 対象患者 入院初日に初診料の時間外・深夜・休日加算が算定されて入院した患者数 / 全 DPC 対象患者 救急車で搬送され入院した小児の患者数 / DPC 対象患者 緊急入院の小児の患者数 / 全 DPC 対象患者 入院初日に初診料の時間外・深夜・休日加算が算定されて入院した小児の患者数 / 全 DPC 対象患者 救急車で搬送され入院した患者で、入院精神療法または救命救急入院料において精神保健指定医が診療した場合の加算が算定されている患者数 / 全 DPC 対象患者 緊急入院の患者で、入院精神療法または救命救急入院料において精神保健指定医が診療した場合の加算が算定されている患者数 / 全 DPC 対象患者 入院初日に初診料の時間外・深夜・休日加算が算定されて入院した患者で、入院精神療法または救命救急入院料において精神保健指定医が診療した場合の加算が算定されている患者数 / 全 DPC 対象患者
	患者の年齢構成による評価	一定の年齢以上または未満の患者数 / 全 DPC 対象患者

2. DPC データによって一部分分析が可能なもの、または医療機関の負担が少なく速やかにデータを把握することが可能なもの		
	項目	評価指標の例
	診療ガイドラインを考慮した診療体制確保の評価	診療ガイドラインを明示して、患者へ治療方針の説明を行っているか否か 診療ガイドラインから逸れた診療を行う場合、十分に検討をするための委員会等が設置されているか否か 患者および職員が、診療ガイドラインを閲覧できる体制・設備が整備されているか否か等

医療計画で定める事業等について、地域での実施状況による評価	各 4 疾病・5 事業による入院患者数 各 4 疾病・5 事業による入院患者数 / 全 DPC 対象患者 各 4 疾病・5 事業による入院患者数 / 当該地域の DPC 病院における、各 4 疾病・5 事業による総入院患者数 地域連携診療計画管理料の算定している患者数 / 全 DPC 対象患者 医療計画に、当該医療機関の地域での役割が明記されているか否か 4 疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)および 5 事業(救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療(小児救急医療を含む)) 災害医療、へき地医療、周産期医療に係るデータは、DPC データでは不十分
医師、看護師、薬剤師等の人員配置(チーム医療)による評価	病院に勤務している各職種の職員数 / 全 DPC 対象患者 病棟に勤務している各職種の職員数 / 全 DPC 対象患者
医療の質に係るデータを公開していることの評価	特定のデータ(医療の質の評価等につながる項目)の公表を行っているか否か

3. その他、既存の制度との整合性等を図る必要があるもの

(2) 既に診断群分類の分岐として評価されているもの

項目	評価指標の例
副傷病による評価	副傷病ありの患者数 / 全 DPC 対象患者 特定の副傷病ありの患者数 / 全 DPC 対象患者

(3) 出来高制度で評価されているもの

がん診療連携拠点病院の評価	—医療資源を最も投入した傷病名が悪性腫瘍の患者数 / 全 DPC 対象患者
---------------	---------------------------------------

: DPC データで集計が可能な指標

: 特別調査を行う等で医療機関の負担が少なく速やかにデータを把握することが可能と考えられる指標

中医協の資料をもとに作成

診療組 D-6
21. 5. 14

DPC 対象病院で進む GE の使用

同日は、DPC 対象病院と準備病院の後発医薬品使用状況を事務局が報告。それによると、2003 年度と 2004 年度の対象病院(144 病院)は、薬剤費における後発医薬品の占める割合(金額シェア)が 5 年間で倍増していた。2006 年度と 2008 年度の対象病院(574 病院)については、準備病院から対象病院になった年度に大きく上昇しており、対象病院で後発医薬品の使用が進んでいることが明らかになった。

DPC 対象病院及び準備病院における後発医薬品の使用状況について

1. 薬剤費における後発医薬品の占める割合(金額シェア)

施設類型	施設類型別 薬剤費における後発医薬品比率				
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
平成15年度 DPC 対象病院(82 病院)	2.6%	3.4%	4.1%	5.1%	5.6%
平成16年度 DPC 対象病院(82 病院)	5.1%	7.4%	8.8%	10.0%	10.6%
平成18年度 DPC 対象病院(216 病院)	—	4.1%	7.1%	9.7%	10.6%
平成20年度 DPC 対象病院(358 病院)	—	—	4.7%	5.1%	9.1%
平成19年度 DPC 準備病院(704 病院)	—	—	—	5.1%	5.4%
平成20年度 DPC 準備病院(137 病院)	—	—	—	—	5.7%
総計	3.4%	4.1%	5.4%	6.2%	7.4%

2. 医療費における薬剤費の占める割合(金額シェア)

施設類型	施設類型別 医療費における薬剤費比率				
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
平成15年度 DPC 対象病院(82 病院)	17.2%	17.2%	16.1%	16.0%	15.5%
平成16年度 DPC 対象病院(82 病院)	14.0%	13.7%	12.5%	12.5%	12.0%
平成18年度 DPC 対象病院(216 病院)	—	14.1%	12.4%	12.3%	11.8%
平成20年度 DPC 対象病院(358 病院)	—	—	13.6%	13.8%	12.0%
平成19年度 DPC 準備病院(704 病院)	—	—	—	13.8%	12.8%
平成20年度 DPC 準備病院(137 病院)	—	—	—	—	12.6%
総計	15.8%	15.3%	13.8%	13.8%	12.8%

※平成19年度DPC準備病院には平成20年度DPC対象病院に参加しなかった平成18年度DPC準備病院13病院を含む。